

令和6年度 第1回 西宮市環境計画推進パートナーシップ会議 議事録（発言要旨）

- 開催日時：令和6年7月26日（金）10：00～12：00
- 開催場所：西宮市役所 第二庁舎 6階 B601会議室
- 出席委員：狭間会長、清水副会長、樋口委員、畑田委員、内田委員、山崎委員、津高委員、達川委員、藤田委員、贄田委員、鈴木委員、曾我委員、張野委員、石丸委員、花田委員、石川委員
- 事務局：（環境局）大西局長
（環境統括室）鮫島室長
（環境企画課）鮫島課長（兼）
（環境学習都市推進担当）谷口担当課長、中村係長（欠席）、瀧川係長、田中係長、福島主査、鮎川主査、赤澤副主査
（ゼロカーボンシティ担当）竹内担当課長、鶴岡主査
（環境事業部）森川部長
（美化企画課）藪内課長、宮本係長
（事業系廃棄物対策課）丸田課長
（環境施設部）鳥羽部長
（施設管理課）高橋課長
（施設整備課）太田課長
（土木局）尼子局長
（公園緑化部）藤原部長
（花と緑の課）船越課長、北田係長
（教育委員会）漁次長

開会の挨拶

人事異動に伴う事務局の新職員について紹介（谷口担当課長のみ、その他配布資料の通りのため割愛）およびペーパーレス化の取り組みについて今後も可能な範囲で協力を依頼。（事務局）

1. 環境まちづくりフォーラム（協議）

「資料1 令和6年度環境まちづくりフォーラム（案）」について説明。（事務局）

- 同日開催の「消費生活展」（アクタ西宮2階）については、昨年にポスター展示を拝見し、ワークショップなどもあるいろいろな方が来られるイベントだと感じた。6階のフォーラム会場と少し距離があるので、どのように講演会に集客するのかが気になる。例えば、

2階で呼びかけるとか、また、2階で出展されている方や様々な年代の方、ステークホルダーの方などに、パネリストのような形で講演会に出ていただくことができれば、講演会に足を運んでくれる方も増えるのではないかと思います。効果的な集客について、連携して工夫していただきたい。(委員)

→2階は商業施設が入っておりにぎわっているが、そこから6階に足を運んでもらうためには工夫が必要だと思っている。講演会と「消費生活展」との連携を検討させていただく。講演会だけでなく、当日2階を通りかかった方が6階の展示会場にも足を運んでいただき、環境の展示も見ていただけるような工夫ができればと思う。(事務局)

●他の地区や団体間の情報交換や交流も期待できるとあるが、立ったまま話をするのではなく、例えばお便りを紹介しながら話すなど、机と椅子があるようなブースを用意してもらえれば交流がしやすい。また、地域の中で他に活動されている方がいれば、この場で話ができればいいと思う。(委員)

→エココミュニティ会議や環境衛生協議会の活動、パートナーシッププログラムに認定されている大学生による活動、このパートナーシップ会議の委員の皆様のご所属団体による活動などを中心にご出展いただきたいと考えている。団体活動をされている方同士での情報交換もぜひこの機会にさせていただきたいと思っているので、来場者も含め、団体の活動についてゆっくりと話していただけるような工夫をしたい。(事務局)

●コープこうべも消費者団体連絡会に参加しており、消費生活展に出展させていただく。気候変動がテーマではないが、海をテーマに自然の循環などについて展示する予定である。展示会の時間が10時半からなので、講演会が始まるまで現場で一緒にチラシを配布したり設置したりすることもできるので、できることは協力させていただく。(委員)

●大変良い試みなので、うまく行ってほしい。2階から6階への誘導とどのように盛り上げるかということについて、2階にモニターを置いて6階の様子を中継したり、「6階に行くと席があります」などと出しておいたりすると、6階に行く人もいるのではないかと思います。行かないとしても、こういうことをやっているということを通りすがりの人に展示の1つとして見てもらってはどうかと思う。(委員)

●2階でクイズを出しその答えや解説を6階で見るというのはどうか。また、講演会についてはテーマが「気候変動」ということで、とても時期にあったテーマだと思う。「消費生活展」との同時開催ということを活かし、「消費行動の変化が気候変動に与える影響」という観点を話の中に入れてもらえたらと思う。自分たちの暮らし方や消費構造の変化が、気候変動や生物多様性などにも良い影響を与えることができるということを来場者に伝えてほしい。(委員)

●大学生をターゲットにするのであれば、SNSを使うと案内が届きやすいと思う。制約はあると思うが、そういった試みについてはいかがか。(委員)

→市の広報手段として、公式のX(旧Twitter)やFacebook、LINEでの通知などがあるため、積極的に使って広報していきたいと思う。ぱっと見たときにどういうイベントかわか

りやすく、行ってみたいと思っただけのような広報ができればと思う。(事務局)

- 2点あり、1点目は集客のアイデアについて、当日はいろいろと魅力的なコンテンツがあると思うので、ビンゴやスタンプラリーなどに参加して各所を回っていただくなど、エンカレッジする仕組みがあれば、予算も少なくできるのではと思った。2点目は講演会について、自分も一市民として勉強のためいろいろな講演会に参加するのだが、いつも最後に「何をすればいいのか」というところで、「もう少し勉強を頑張ろう」ということで終わってしまう。講演会で市民の皆さんの関心や知識が高まったところで、「あなたの地域ではこんな活動が行われています」とか「こんな活動に参加してみましよう」などといった紹介があると、効果的に行動に繋がられると思う。(委員)
- 来年の1月で阪神淡路大震災から30年になるが、「気候変動」というテーマはそれにも即して良いテーマだと思う。震災のこともわかっていただけるような展示などもあればいいと思う。(委員)
- これから事務局の方で準備にとりかかっていくと思うが、本日いただいた皆様のご意見を踏まえて、事務局に一任するというところでよろしいか。(委員)

→ (異議なし)

→ たくさん貴重なご意見をいただいたので、今回のフォーラムのみならず、今後の啓発活動に活かしていただきたい。(委員)

2. 第3次西宮市環境基本計画の中間改定に関する報告(報告)

第3次西宮市環境基本計画の中間改定について報告。中間改定の大きなポイントは、本計画を環境教育等促進法の行動計画に位置付けすることおよび環境学習のバージョンアップを図るという2点。環境基本計画の冊子に沿って説明。(事務局)

- 計画の中に「ゼロカーボン」を目指すところがあるが、政府が言っているのは「カーボンニュートラル」、また多くの大企業が宣言しているのは「ネットゼロ」であり、計画に記載されている程度の説明であれば同じ意味と理解しても間違いではないが、厳密にいうと異なっており、どちらを目指すかが大問題となる可能性がある。例えば企業の活動で「カーボンニュートラル」というと、その企業が直接排出している、工場を出しているCO₂と、企業が使用する電力により排出されるCO₂を計算して、それを吸収してゼロにしますという宣言のことで、スコープ2までである。グローバル企業の大多数は「ネットゼロ」宣言に移っているが、こちらはもっとハードルが高く、スコープ3とあって、自社が製造して販売した製品が廃棄物として使用済みとなって処理されたり、リサイクルされたりする際に排出されるCO₂も入っており、対象となっている製品のライフサイクル全体にわたってCO₂をゼロにするという宣言である。「カーボンニュートラル」なのか「ネットゼロ」なのか、似ているようだが、本気で目標に近づいていくととても大きな違いがある。

西宮市の「ゼロカーボン」はどちらの言葉とも違うので、まずどちらを意味するのか伺いたい。(委員)

→「ゼロカーボン」は、今の考え方としては「カーボンニュートラル」かつエネルギーの消費ベースと考えている。今後の検討課題としてさらに勉強していく。(事務局)

→「ゼロカーボン」はあまり聞いたことがないので、「カーボンニュートラル」と同じであるという注釈を入れるか、スコープ2まで考えるというようなことを書いておいた方がいいのではないか。(委員)

→検討したいと思う。(事務局)

●環境の分野だけを極めて限定的に見た計画かと思うが、現在市が置かれている状況を見ると、もうすぐ令和5年度決算状況が出ると思うが、令和4年度に引き続き赤字だと聞いている。その解消のために、財政構造改革により令和10年度までかけて解消を図っていくというところで、厳しい状況にある。市の施策事業を進めるには財政の面は絶対に考えていかなければいけない問題である。ところが本計画にはそういった話が全く記載されていない。本計画を進めるうえで、もう一方で進めようとしている財政構造改革が影響するかどうか、その辺りの説明が全くないので、この計画だけ見ると良いものに見えるが、そう簡単にはいかないのではないかと思う。(委員)

→確かに本計画だけを見ると限定的ではある。財政面については、石井市長が政策を進めていくうえで財政構造改善を進めなければ西宮市の先はないという中で、まず自分たちの身を切れるところから切っていき、また、行政の中で改革すべきところ、他市に比べて非常にお金がかかっているところを他市並みにするなど改善を進めていこうとしている。身を切るという部分では、例えば、市民の皆様に影響を出さないということで、市有地の売却や管理職(局長級以上)の給料カットなどを進めている。そして環境の施策を進めていくための一つの手法としては、国あるいは県の補助金の獲得を考えている。商工会議所のお力もお借りしながら、今年度末には環境省の重点対策加速化事業の獲得を目指している。市で捻出した部分と国や県からの補助金、これらを合わせて施策を進めていきたいと考えている。本計画には財政面に関する言及はないが、計画の推進に影響がないよう、身を切りながら、かつ国や県の力を借りながら進めたいと考えている。(事務局)

→内部努力をされるのは当然のことだと思う。市民や団体から市政に対する意見や要望を出すと、市から出てくる答えは常に「お金がない」ということで、否定的にしかとらえていない。市民団体等と大勢で一緒に市政を進めていきたいと思うなら「お金がない」と言わずに、しっかり努力していただきたいと思う。(委員)

3. 計画の進行体制の見直しについて(報告)

「資料2 計画の進行体制の見直しについて」について説明。(事務局)

- もともと「パートナーシップ会議」という名称は、市民サイドが積み上げてきた取り組みや諸活動の蓄積のもとに、まさにパートナーシップということを会議の名称に埋め込み、進めてきた。単なる「審議会」とは違い、市民・事業者・行政の三者がみんなで一緒に環境学習や行動変容を推進していこうという、「パートナーシップ」という名称に込められた意味が非常に重要だと思う。そのため切り替え方は工夫しないとイケないし、「審議会」という名称にしてしまうのが寂しい気もする。一本化するのはいいが、より協働化するというニュアンスでの切り替え方ができないだろうかと思う。(委員)
- 西宮市が今まで大切にしてきたパートナーシップの関係は今後も今まで以上に大切にしつつ、名称については、様々な検討を重ねた結果「環境審議会」という予定にさせていただいている。新しい審議会はパートナーシップを重視した会議とし、市の施策としてもパートナーシップをより大切にしながら進めていきたいと思っているので、ご理解いただきたい。(事務局)
- 名称が「審議会」でも、議題設定の仕方やメンバー、あるいは論議の仕方などが大いに関係してくると思うので、よりパートナーシップを前提とした新たな「環境審議会」という認識で進めてもらいたい。(委員)
- パートナーシップ会議が中心というイメージがある。また、「環境審議会」というと堅苦しいイメージがあるので、できれば「パートナーシップ会議」で考えてもらいたいと思う。「環境審議会」という新たな組織で、計画の策定から推進、最後のチェックまで全て機能する形になると思うが、各審議の時にメンバー全員が集まるのかどうかなど、イメージがわからないので教えてもらいたい。(委員)
- 今までは「環境評価会議」でかなり深くまでチェックする体制が設けられていたが、環境施策を推進する体制が整ってきたことや内部監査も行っていることから、新たな審議会では施策についての報告を行ってご指摘をいただくというチェック方法を予定している。計画策定については、部会で話ができるところはより深くそれぞれの部門で話し合いを行い、全体の審議会を開いて確認していただくというイメージである。(事務局)
- たたき台を市が作成し、各部会で計画策定を行い、それを全体の審議会で決めていくという流れでよいか。(委員)
- そのように考えている。(事務局)
- 内部チェックするとのことだが、内部だけではない方がいいと思う。内部だけだと偏りがでることもあり、いくつかあったものを一つにまとめるということはそれだけ関わってくださる方が少なくなり声が小さくなってしまわないかと思う。いろいろな会議体があってここここまで進んできたと思うので、全てを一つにまとめるのではなく、より協働化することについて考えていただきたい。(委員)
- 「環境計画評価会議」も新しい「環境審議会」に吸収されることについて、以前は2日間程かけて環境計画を1つ1つ見て評価し、話を聞く必要があるところは具体的に話を伺うというプロセスだったと思う。それと全く同様のことを新しい「環境審議会」でするわ

けでなはいと理解したが、チェック体制がそのまま引き継がれないのであれば仕組みとして心配である。また、名称について、「パートナーシップ」というのが西宮市の環境施策における重要な概念であり、「パートナーシップ」という名前をつながる場所が多かったと思う。西宮市が独自の取り組みをしていることを鑑みると、例えば「環境審議・パートナーシップ会議」というような名称でもいいかと思う。(委員)

→今まではかなり深くチェックしていただいていたが、審議会と同じようにしていただくのは時間的に難しく、環境報告書を審議会でも報告し、それに対してご意見や修正が必要な点などをご指摘いただくという形で考えている。詳細はまだ決まっていない部分もあるので、本日いただいた意見をもとに内部で検討させていただく。名称についても同様に十分検討し、最終決定をさせていただく。(事務局)

→評価の部分に関してはよく理解できた。大きな会議体でチェックを行うことは難しいと理解している。ただし、漏れがあった時のために、例えば、部会をシャッフルし、他の部会の計画を確認する時間を設けるなどの仕組みがあったらいいと思う。(委員)

●他の委員と同様に「パートナーシップ」はとても大切だと思っている。SDGs ウエディングケーキモデルで言うと、環境審議会の部会は各目標(テーマ)であり、それとは別の視点で、「パートナーシップ会議」は色々な役割や立場の方が一緒に推進していくということに意義があるというものだと思う。最初に西宮市の環境施策を見たときに、EWC事業とこのパートナーシップ会議というものが素晴らしいと思った。今回の見直しで西宮市の独自性が失われていくのではという懸念を感じる。(委員)

●評価の機能を「審議会」の中に入れるということは、構造的に大きな変化であり、よく考えた方がよいと思う。監査・評価の質が下がるのではないかとということと、何かあった時に説明ができるのかという2つの課題があると思う。事務的な手続きが大変であることはよく理解できるので、どうするかはよく考えればよいと思う。また、パートナーシップ会議については他の委員と同じ意見で、西宮市の素晴らしい政策の一つである「パートナーシップ」をなくしてしまうのはあまりにもったいない。名前が「環境審議会」であると、中身がパートナーシップ会議であっても外からは見えないし、周りから「環境審議会」であると思われていると中身もそうになっていってしまうものなので、名前も大事であると思う。もっと大事なのもちろん中身で、「パートナーシップ」という形で進めてきた西宮市の独自の政策が今後生まれてきづらくなるのではないかとということが最大の懸念である。事務的なキャパシティの問題で合理化、簡素化したいということではよく理解できるので、名称はともかく簡素化することはよいと思う。パートナーシップ会議で一番大事なのはDoとAction、特にDoだと思う。そう考えると、パートナーシップ会議では、大きな市全体としての環境計画というレベルの話というよりは、むしろそこから抽出された課題に対して一緒にどうしていくかという段階の話をしてきたが、そういった内容の話ができ、かつ手間がかからないとなれば、ステークホルダーの方と協力した方が合理的で成果が上がるのは目に見えている。パートナーシップ会議の機能を引き継ぐようなもの

を作って整理し、かつ外部にそれが見えるようにすることで懸念をある程度解消することができるのではないか。具体的な政策の効率的な実施と、ステークホルダーが参加し実施するということが肝であり、それによって成果が出るはず。また外部から見たときに西宮市がどのような方針で進めているのかがクリアに見えるような組織にしてもらいたい。
(委員)

4. 各部会の報告（報告）

・地球温暖化対策部会

「資料3-1 地球温暖化対策関連事業」及び

「資料3-2 地球温暖化対策実行計画の実績報告について」について説明。（事務局）

・生物多様性推進部会

「資料4-1 市民自然調査の実施結果について」及び

「資料4-2 ツヤハダゴマダラカミキリ」について説明（事務局）

- 調査の精度についてもっともな振り返りをされていて、ぜひ10年後にスマートフォンのアプリなどでの調査の実施が実現されているといいなと思う。また、市内で生活している中で様々な場所でチラシを目にした。多くの市民が参加されたことは素晴らしく、まさに「パートナーシップ」だと思った。今後の発展も楽しみにしている。（委員）
 - 同定の精度の問題はあるとしても、これだけ多くの種類の生き物に目を向けてもらおうという取り組みは、西宮市の特徴ある取り組みで素晴らしいと思う。環境学習および普及啓発としての質、そして生物調査としての質、どちらも高められるようにバージョンアップしていけたらよいと思う。そのためには生物多様性の部会だけでなく、子どもに向けた環境学習、または大人の生涯学習として活用できたらよいのではないかと思う。これだけ多くの動植物の同定をしようと思うと指導者が必要であり、実際に生物に詳しい人が同行して子どもたちに教えているような場面が多くあると思うので、それを生涯学習としても成り立たせ、みんなで意見を交わせるような中で新しいものを作っていけたら素晴らしいものができると思う。また、結果をホームページで報告しておられ、子どもが見てもわかりやすいものになっていてよいと思うが、文書としてPDFでまとめたものもある方がよいのではないか。全国でも何か所かで同様の調査があり、検討するときに引用でデータを収集することがあるので、その際に使用してもらえそうなデータをホームページにあげておくと、参考にしてもらえるのではないかと思う。（委員）
- PDF化した文書を出すということについて、調査の精度の問題がある。例えばクビアカツヤカミキリは報告件数21件となっているが、報告を受けて現地に見に行ってみると、全く違う昆虫であったり、見つけられなかったりといったことがあり、実際に市内でクビ

アカツヤカミキリが発見されたのは1か所だけであった。全ての報告をそのまま情報として出すのも問題があると考えているので、精度の問題も含めて検討していきたい。(事務局)

- 大阪城公園で小学生がクビアカツヤカミキリを探すというイベントを行っていた。調査とは異なるが、1つテーマを決めて小学生に生き物への関心を持ってもらい、そして見つけられた場合は早期に対策ができるというメリットもあるので、そういったことも検討いただければと思う。(委員)

・廃棄物減量推進部会

「資料5 廃棄物減量推進部会の実施報告」について説明。(事務局)

5. その他（報告）

「資料6 令和5年度エココミュニティ会議活動状況」及び

「資料7 令和5年度環境学習事業の報告について」について説明。(事務局)

- 資料6の報告書内に「ゴミ」とカタカナで表記があるが、通常はひらがなで表記する。特別な意味を持たせたり強調する時などにカタカナにすることもありますが、ここでは何か意味があるのか。

→意味はなく、表記ミスである。申し訳ない。(事務局)

- 甲東エココミュニティ会議としては、指定袋ができ目途がついたなというところでモチベーションが下がっていたが、子どもたちに向けての学習が滞っていたので、今年は高校生に参加してもらったり、また中学生にも活発に動いてもらったりしたいと思っている。甲東では、LEAFが招いている開発途上国の方々に、年に2回ほど甲東の取り組みを伝えている。8月末に神戸女学院の学生や先生、地域の方々も交えての交流会を開催予定で楽しみである。子どもへの環境学習を、私たち地域の者がどれだけのことができるかはわからないが、一緒にごみのことを考えるいい機会だと思っている。また、夏祭りでも中学生に来てもらっているのだが、「ごみステーション」ではなく「エコステーション」として設置している。(委員)

- 活動休止中で令和6年度の補助金申請もない地域がいくつか見受けられるが、エココミュニティ会議同士で再生していこうという話や、横のつながりはあるのか。(委員)

→横のつながりはあまりない。ぜひつながりを持てたらいいなと思っているので、最初に話のあったフォーラムなどでエココミュニティ会議も出て交流できればと思う。保護者の参加がとて減っていて、PTAの加入率も下がっており、地域で活動する際に人手が少ないという状況が続いている。保護者や地域の方たちには、特別なことではなく、エコや気候変動など直接自分に関わることだということを発信していきたい。ぜひエココミュ

ニティ会議の活動も知っていただきたいし、横のつながりで隣の地区と一緒に何か活動できることなどがあれば、よりいっそう環境の計画にも市民が関わっていけるのではないかと思います。(委員)

→フォーラムは「消費生活展」と一緒に開催ということもあり、より広がりがあればいいと思う。事務局の方にはよろしく願いしたい。(委員)

6.連絡事項

第2回西宮市環境計画推進パートナーシップ会議は1月頃の開催を予定している。(事務局)